令和３年度　江戸川区立小岩第二中学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	・進んで学び、協力し合う生徒の育成 ・規律を守り、責任を果たす生徒の育成 ・健康で思いやりのある生徒の育成	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・「江戸川一を目指す二中」 ・所属感、自己肯定力、自己有用感を持たせ、二中の生徒であることにプライドを持つ。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・委員会活動や部活動などを通して、所属感、自己肯定力、自己有用感をさらに高めることができた。 ・教材の工夫や授業規律の徹底により、前向きに学習に取り組む環境を保っている。 ＜課題＞・引き続き、家庭学習習慣の定着を徹底し、基礎学力の底上げを図り、学力を向上させることが課題である。 ・家庭や地域の持つ課題に外部機関との連携をさらに強めながら向き合っていく。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・放課後数学補習を充実させる。土曜日には受験対策講を実施する。	・放課後数学補習教室　1人あたり24回を実施する。土曜の受験対策講座は12回実施する。	A	A	○放課後補習は定員の8割以上が参加し、一人あたり10回以上実施した。受験対策講座も2学期に始まり、約20名が参加した。	A	補習の体制が充実している。	放課後補習・受験対策講座を継続して実施する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 (読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・おすすめ本のカードを作成し、発表する。 ・学校図書貸出電子化を推進する。 ・新校舎への引っ越しに伴う蔵書の整理	・年1回読書カード作成 総合の授業での調べ学習・発表 ・新着購入本を2学期に完了させる。蔵書の整理も随時行う。	B	B	○各学年でおすすめ本のカードの作成に取り組んだ。 ○図書館司書による蔵書整理も進んだ。	A	感染防止のため本の貸出禁止の期間が長く難しい点があったようだ。そのような中でも朝読書・調べ学習に積極的に取り組んでいると聞いている。	今後も蔵書整理を進め、図書館の充実を図る。
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・毎回補強運動を実施する。 ・昼休みに校庭を開放する。	コロナ禍においても運動能力テストで昨年度を下回らない。	B	B	○毎回の授業で補強運動を実施した。	B	狭い校庭で環境が悪い中でも工夫して取り組んでいる。	狭い校庭での補強運動を工夫する。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・パラリンピックの選手を招き、講演会を実施する。	・講演会をパラリンピック開催前に実施する。	A	A	○パラアーチェリーの選手による講演会を行うことができ、事後に生徒との手紙による交流もできた。	B	各教科でオリパラ教育を進めていることを聞いている。	培ったオリンピックマインドを継続させる。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・英検の受験を推進する。	受験者数を昨年度より多くする。合格率を上げる。	A	A	○英語科で英検への受験を推奨する取り組みを行った。	B	英検の合格率が上がっていると聞き先生方の頑張りを感じている。	英検への関心を高め、受験率の向上を図る。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・いじめ防止総合対策に基づき、研修を実施する。	いじめ防止総合対策に基づいた年2回の研修を実施する。必要に応じて外部機関との連携を図る。	B	B	○不登校については毎週の特別支援委員会で情報交換や今後の支援を検討できた。	A	いじめは絶対許さないという強い信念のもと組織的に指導に当たられていることが分かった。	今後も生徒理解に努め、研修を実施して認識を深める。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援委員会を中心に、生徒個別の対応を連携して進める。 ・特別支援教育に関する校内研修会を実施し、生徒理解をさらに深める。	・特別支援委員会を毎週行い、支援について検討する。 ・特別支援教育に関する研修会を2回以上実施する。	A	A	○支援が必要な生徒の共通理解を図り、役立てることができた。 ○講師を招いて特別支援教育に関する研修会を実施できた。	A	支援が必要な生徒に対する体制が整えられている。	特別支援委員会で引き続き、支援策を検討していく。
			全教員が教材研究や指導観を改善する。	週1回、生徒の個に応じた支援方法を検討する。	A	A	○特別支援専門委員も参加し、支援体制を進めることができた。	A	個々の生徒への対応が年々充実してきたと聞いている。	教員の特別支援教育のスキルを高める。
			SC、SSW、SSとの個別面談	生徒の変容を確認、分析する。	A	A	○SSWによる支援体制も進めることができた。	A	相談しやすい体制が整っている。SCを有効活用してほしい。	外部機関との連携をさらに進める。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	Teamsの活用やオンライン授業の方法に関する研修を実施する。	ICTを活用するための研修会を年3回実施する。	A	A	○タブレットの活用法やTeamsを用いての授業の仕方の研修を行った。	B	タブレットの活用を進めていただきたい。	オンライン授業への対応を進める。
			研修会を実施し、生徒の個に応じたアプローチの仕方を学ぶ。	フェイスシートを作成し、7月までに教員で共通理解し対応する。	A	A	○フェイスシートを用いて共通理解を図ることができた。	A	特別支援教室は巡回で行うが、自校で受けられるのはよい。	今後も個に応じた支援の在り方を検討していく。
特色ある教育の展開			小中の教員で情報を共有する機会をつくる。	コロナ禍においても年1回以上小中の教員で協議する。	B	B	○小学校に出向いての学校紹介はできた。	A	近隣小学校・地域との連携を常に考慮しながら進めてくれている。	小中の教員同士による連携で共通理解を図る。
			コロナ禍においても、できる活動を考え、実行する。	1回以上のボランティア活動を実現する。	A	A	○まだ使える文房具の回収やユニセフ募金のボランティアを行えた。	B	感染の心配がなくなりボランティア活動が再開できることを望む。	今後できる活動を検討し、計画を進める。